

## 平成25年度 附属学校園存続のための特色化にかかわる事業実施報告書

事業の名称	学級経営研究プロジェクト
事業実施代表者名	檜 山 聡
実施附属学校名	附属函館小学校
事業内容 (実施内容について、 1,000字程度で記述)	<p>学級崩壊が起きないようにするために、教師が子供を理解する力量を高めることが求められる。そこで、Q-Uを活用し客観的データを収集し、それを分析することで子供への支援を考えると同時に、教師の子供を見取る力を高めるために、教師自らが子供の実態を予想してQ-Uにプロットをする。この教師のアセスメントとQ-Uの結果のズレを出来るだけ少なくすることが教師の子供理解力を高めることと考え実践した。</p> <p>さらに、Q-Uの結果の読み取りや子供への支援をよりレベルアップさせるために、研修会を定期的に行い、外部講師を依頼して指導助言を仰ぎながら研修を深めることにした。</p> <p>また、道南地区に「学級経営研究会」を立ち上げ、道南における学級経営研究の中心として研究と実践を積み重ね、公立学校に研究成果を還元する。</p>
成果と課題 (活動の成果と課題について、500字程度で記述)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Q-Uのアセスメントは、教師の子供理解力を高めることができる。</li> <li>2. Q-Uの結果を基に、子供への支援を考え働きかけることで、子供の満足度は確実に上がる。</li> <li>3. 子供の満足度を高める働きかけを継続することで、教師の学級を経営する力は高まる。</li> <li>4. 学級崩壊を防ぐ為のアクションを起こすには、データが少なすぎる。研究を継続することと広げることが必要となる。</li> <li>5. 学級経営研究会を函館市のサークルとして立ち上げるためには、制度上平成26年度の活動として位置付けることになる。</li> </ol>
今後の発展性 (残された課題の解決方策及び取組の方向性について、500字程度)	平成26年度の学級経営研究会の立ち上げに向かって、市教委は勿論、公立学校の校長や教頭に働きかけている。研究会の申請が認められるよう資料を整えていく。

度で記述)	
事業の公表状況 (事業をHPで公開した場合、又は新聞等に掲載された場合、当該媒体名、掲載日等を記入)	事業の公表はしていない。次年度研究会が発足した時が公表のチャンスである。

(注) 当該事業に係る写真等の参考となる資料がある場合は、この事業報告書に添付すること。